

「手立て一覧表」の中で、分かりづらいと思われる手立てについて、事例を紹介します。

C 対話する

ステップ②へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)

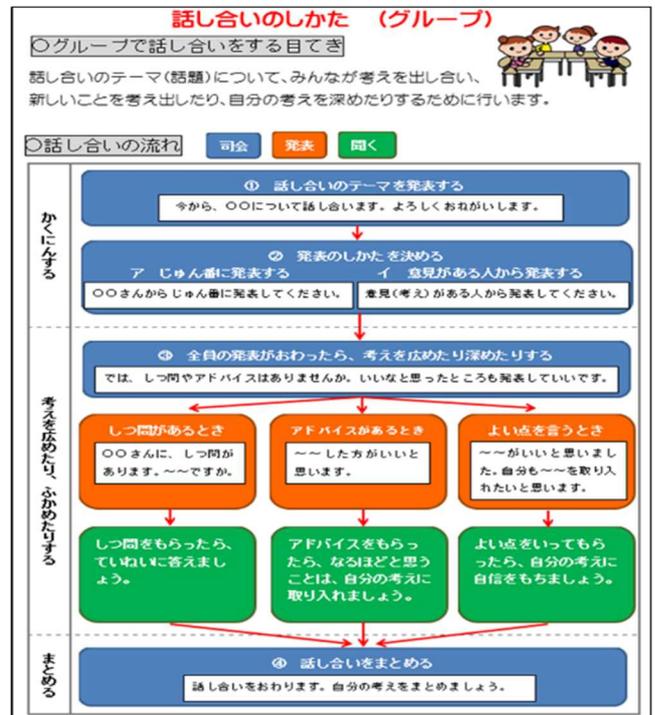
m' もち寄った互いの考えを比較させることで、共通点や相違点に気付けるようにする

(例) 話し合う際の話型を与える場合

この記事は、エピソードを具体的に書いてあるところが、いいなと思いました。ぼくの記事にも付け加えたいと思います。



話型を基にして考えを伝え合う児童



話し合う際の話型 (カード)

p' 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。

児童とのやり取りで決定した、話し合いの観点(黒板に掲示)

構成表作りのポイント

- (1) 「根拠となる出来事・資料」
・出来事と資料の内容がより合っている付箋を選ぶ。
- (2) 「予想される反論と、それに対する考え」
・反論への考えについて、根拠となる事実を付け加える。

この付箋は、反論に対する考えの根拠になると思うんだけど…どうかな。

「構成表作りのポイント」の(2)に当たるね。

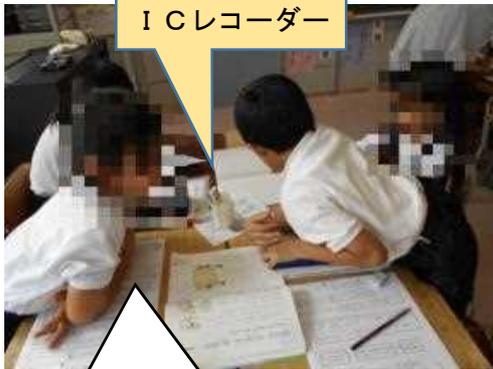


なるほど。付け加えていいと思うよ。その方が、説得力が増しそうだね。

観点に沿って話し合う児童

q ICT機器を用いることで、自分たちの対話を客観視できるようにする。

(例) ICレコーダーで話し合いを振り返る場合 (話すこと・聞くこと)



質問の仕方は、どうだったかな。聞き直して確かめよう。



〇〇さんは、質問をすることができていたね。

C 対話する

ステップ③へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)

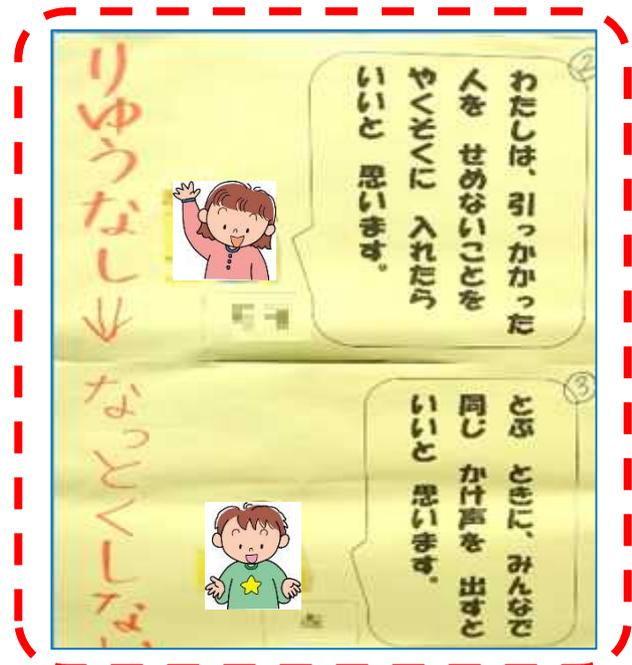
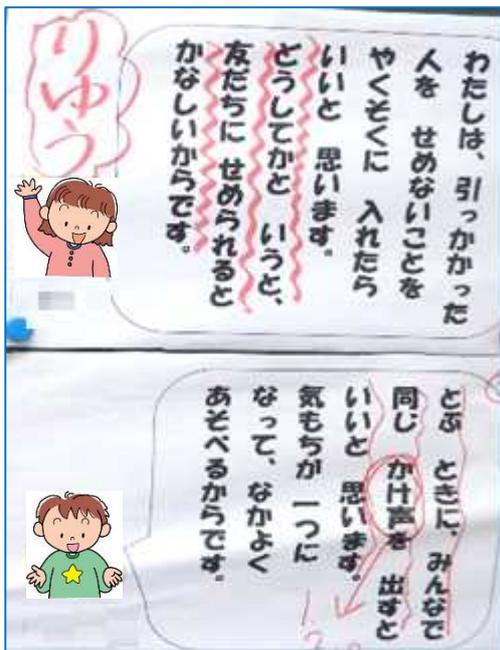
p' (話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す) の具体例は、「ステップ②へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)」に挙げています。

h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

(例) 児童がつまずきそうな場面をあえて示すことで、身に付けるべき力に気付けるようにする場合(話すこと・聞くこと)

予想されるつまずきを含む、改善の余地が残る例を教師が自作します。教科書などの良質なモデルと比較させることで、児童が身に付けるべき力に気付けるようにします。

「理由を付けて話す」という指導事項に気付かせたい！
でも、実際の児童はきっと……。



きちんと理由を付けて話すと、考えていることが相手に伝わって便利だな。こんなふうに、理由を付けて話したいな。

h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

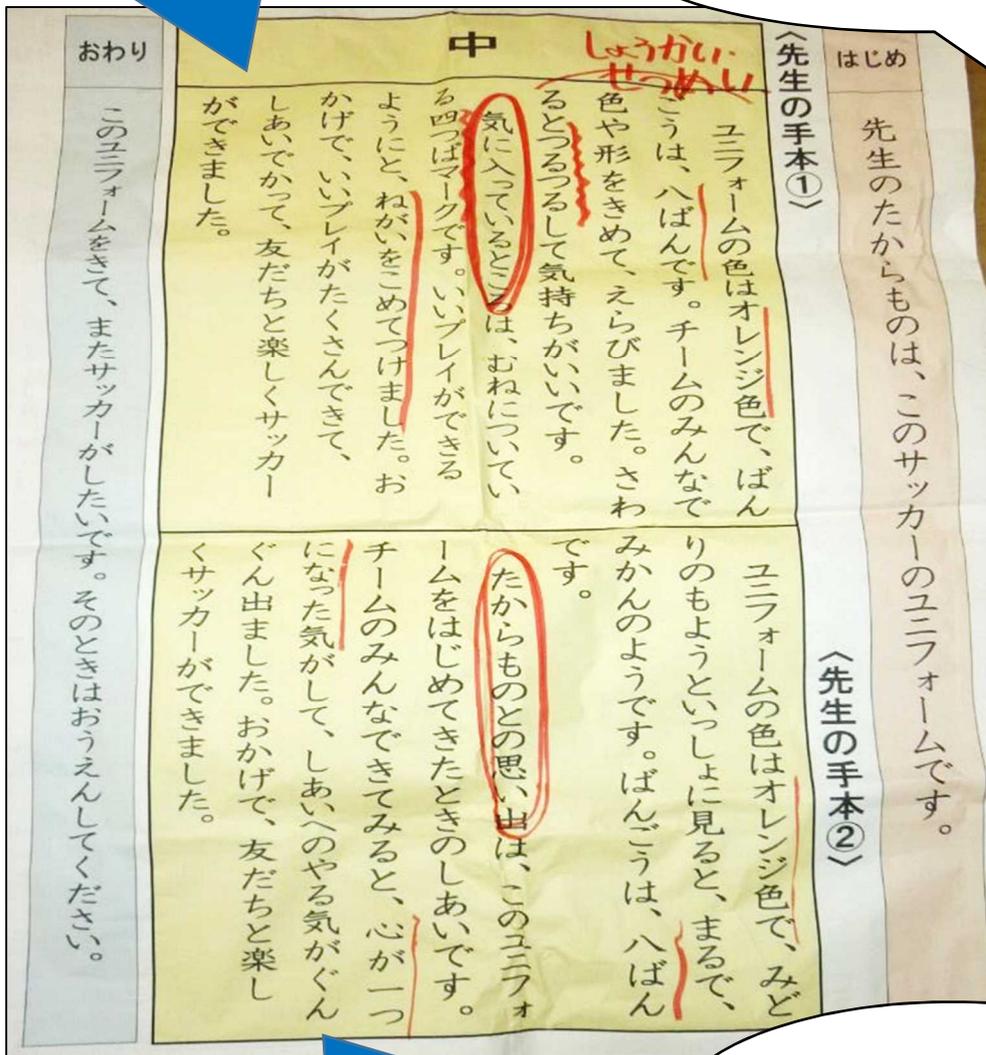
(例) 気付かせたいよさが複数あるモデルを提示することで、身に付けるべき力に気付けるようにする場合 (話すこと・聞くこと)

よさごとに教師がモデルを作成します。モデルを比較することで、それぞれのよさに気付かせることができると考えます。下の写真は、宝物を紹介するスピーチ原稿のモデルです。

〈教師自作のモデル①のよさ〉

- ・手触り (五感)
- ・気に入っているところ、理由

野球のグローブを紹介したいから ごわごわした手触りに加えて、新品のにおいについても書けそうだな。



〈教師自作のモデル②のよさ〉

- ・「まるで～のよう」という比喻表現
- ・エピソード

宝物のハンカチは、転校した友達からもらった物だという エピソードを入れよう。

h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

(例) 児童の実態に応じ、教科書のモデルより簡単なモデルを提示することで、身に付けるべき力に気付けるようにする場合（書くこと）

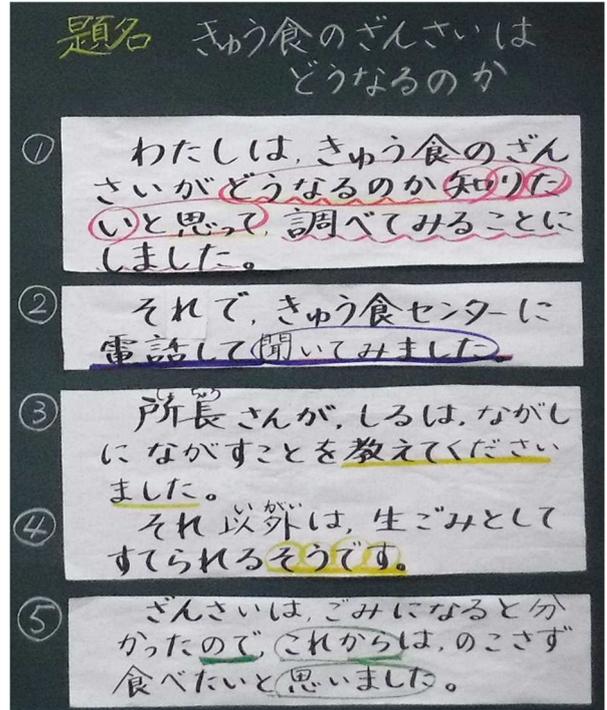


教科書のモデル文では、難しく感じる児童がいるだろうな。児童にとって、より身近な話題で、簡潔なモデル文を自作してみよう！

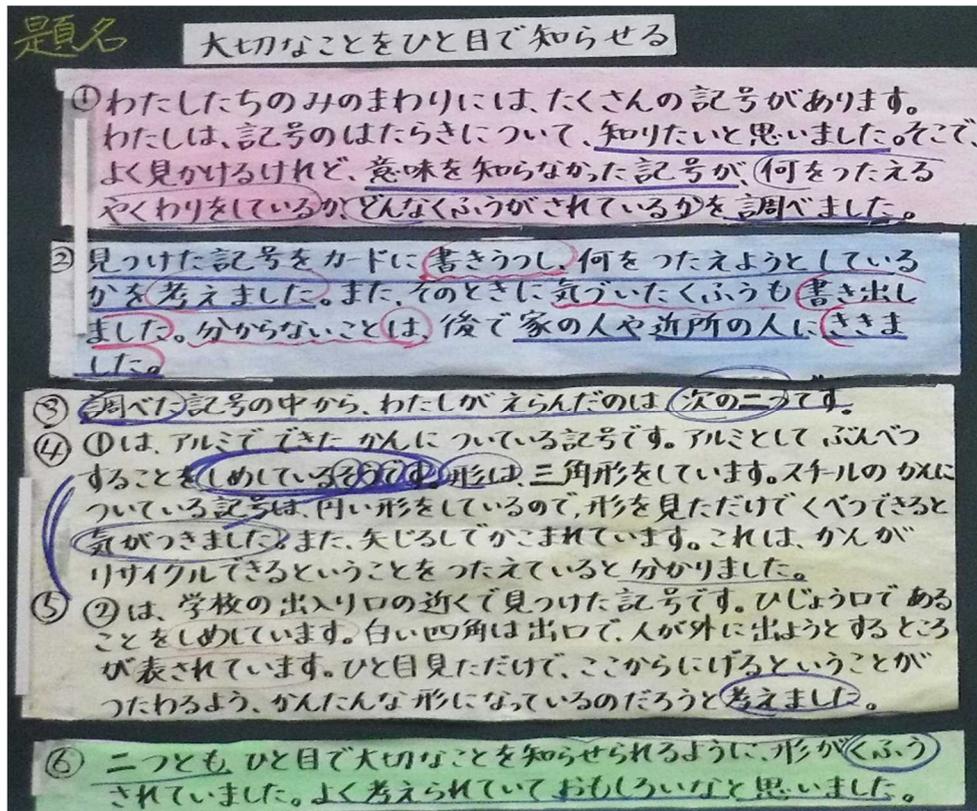
教師自作のモデル文を用いて、4つの構成の順序・意義について理解させた後、確認として教科書のモデル文を用いると効果的です。



あ！教科書でも、同じように4つの構成に分かれているよ！



教師自作のモデル文



教科書に掲載されているモデル文

○ 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさに気付けるようにする。

(例) タブレットPCを用いて、自分たちの発表のよさに気付かせる場合



「問題」と「答え」がきちんと合っていて、「です・ます」の丁寧な言葉も使っているよ。答えをもう少し詳しくで書けるといいね。

しっかり相手を見てクイズを出すことができているね。声の大きさもちょうどいいよ。問題と答えの間はもっと間を取った方がいいよ。

○' 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。

(例) 書いた文章を推敲する段階で、友達と見せ合う場合（書くこと）

同じテーマの児童によるチェック

教師が指定したチェック項目（新出の指導事項）

本人が設定したチェック項目（既習の指導事項）

チェックすること	自分でチェック	同じ材料の友達サイン	ちがう材料の友達サイン
	○か△	○か△	○か△
① 大事なとーれい (くふう) (調りほ) (食品)	○	○	○
② つなぎ言葉を使う	○	○	○
③ 絵と文を合わせて	○	○	○
④ 文のあはれは、いかに言葉で書く	○	○	○
⑤ (くふう) (調りほ) (食品) きりだらくは、同じくせいしく	○	○	○
⑥ だんごのはじめは、つぎ	○	○	○

違うテーマの児童によるチェック

r 互いのよさについて伝え合わせることで、学んだことを客観的に確認させるとともに、次の学習への意欲を喚起する。

(例) 互いの作文に、付箋でよさや感想を書いて伝え合う場合



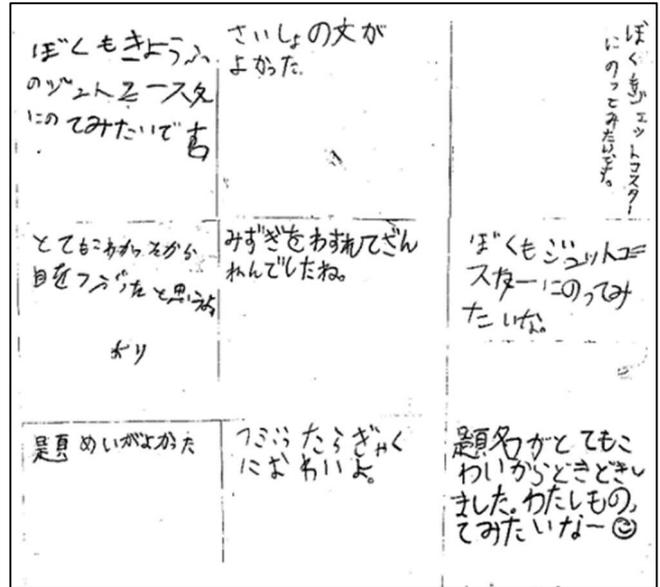
題名がとても怖いから、ドキドキしました。私も乗ってみたいな。



とても怖かったから、目をつぶったんだね。



最初の文が、かぎ（「」）から始まっていていいね。



児童がよさや感想を書いた付箋